

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年12月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年12月8日～12月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より3.1ポイント悪化の▲22.8となった。

2017年9月以来76ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲17.3、当月と比べ5.5ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2024年1月～ 2024年3月
業況	▲16.0	▲14.6	▲14.0	▲18.1	▲19.7	▲22.8	▲17.3
売上	4.6	5.1	▲0.7	▲5.5	▲3.9	▲13.4	▲18.9
採算	▲17.6	▲18.2	▲12.6	▲17.3	▲17.3	▲24.4	▲22.8
仕入単価	▲65.6	▲69.3	▲63.7	▲55.1	▲60.7	▲59.8	▲49.6
販売単価	30.5	33.6	27.5	24.4	26.7	26.0	19.7
従業員	34.3	35.0	34.8	37.0	32.3	33.1	29.2
資金繰り	▲6.9	▲9.5	▲9.6	▲9.5	▲8.7	▲8.7	▲12.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2024年1月～ 2024年3月
建設	▲26.7	▲21.8	▲33.3	▲20.0	▲37.9	▲31.0	▲24.1
製造	▲13.8	▲15.7	▲3.5	▲27.6	▲21.2	▲23.4	▲16.6
卸売	▲3.1	▲10.8	▲10.0	▲6.7	▲3.4	▲16.6	▲6.7
小売	▲33.3	▲18.2	▲19.1	▲25.0	▲15.8	▲25.0	▲15.0
サービス	▲5.3	▲4.3	0.0	▲11.1	▲17.7	▲16.7	▲27.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原燃料油価が下らず主要資材は高止まり。新年からは生コンが値上げされる。資材・労務費は高止まりか、更なる上昇が見込まれ利益率の改善される要素がない。（総合工事） ・冬場の仕事は激減しており、かなり厳しい状況に直面している。一般的には、今年は物価が上昇し企業利益が増加したため、賃上げが実現できたようだが、来年は国内需要を刺激し物価が上昇して賃金が引き上げられ、景気が上昇するサイクルが必要。このサイクルを後押しするためには、政府の財政出動が必要だと考えている。現状のような厳しい状況が続けば業界全体では来年は持ちこたえられてもその先は不透明となる。（設備・その他） ・工務店は、住宅着工件数が経営のバロメーターとなっているが年々減少しているのは明らかであり、営業力の低下も一因であるが新築住宅の需要減少が鮮明となっていることを実感している。新築から中古へシフトするお客様もいるが、新築にこだわっているお客様もあり、その少なくなっているお客様に対し、住宅の高品質・高性能・アフター管理など当社の強みをアピールし、ユーザーを掘り起こすとともに住宅補助金などお客様メリットなどの情報発信により手詰まり感の解消を図っていく。（建築業）
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、日本郵便が2025年秋に値上げの申請をしたようだ。2024年物流問題で運賃の値上げが考えられるのに、他の運送会社も2025年の値上げもあるのだろうか。それによっては販売価格の見直し等の必要が考えられる。（食料品） ・インフルエンザなど病欠多数を含む年末商戦における人材不足。（食料品） ・国内の物価高の影響を受け、消費が冷え込んでいると感じられる。外国人観光客がコロナ前に戻りつつあるので、インバウンド需要に期待。（家具・木材） ・3月以降鋼材単価の上昇が心配される。（金属窯業他）
<p>卸売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高の影響で当業界での消費は確実に委縮している。消費が委縮していながら季節商品の需要が高まった影響で、客単価を押し上げて結果的に売上を維持できた。（繊維・衣服等） ・季節感のある原材料・各種行事に伴ったデコレーション等で顧客に喜んでもらっている。（飲食料品） ・車輦燃料が上がり始め、また林業用車輦について経年もあつたか、修理費用等も若干多くなってきており採算への影響を懸念。（機械鋼材） ・当社は卸売市場であるため川上では原材料・エネルギー価格の高騰により生産コストの上昇による生産者の減少、川下では価格転嫁により売れ筋商品と負け筋商品がはっきりと分かれる状態。特定品目の葬儀等その他に使用される商品は需供のアンバランスで相場の乱高下が激しくなっている。そこにきて24年問題で荷物は大都市集中。（その他）
<p>小売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月年末商戦に入ったが来店客数が非常に少ない。アウト商品及びプレゼント商品の品揃えも充実しているが、来店客が少ないため商品の動きが見えてこない。年末とは思えず、売上が大変厳しい状況。（衣服身回品） ・観光需要が増収を牽引してきたが、冬場に入りやや鈍化傾向。現状ではコロナ禍での大幅減収から完全に回復しているが、今後更に増収とはいかない。原材料高騰は一時期ほどではないが継続、光熱費高止まり・人件費高騰と次年度以降の利益確保が課題。また人材不足は恒常的に続いており、人手不足の中で機械化推進等生産性効率化を図っていくかが問題。（食料品） ・仕入価格上昇と経費金額増加で採算性が悪化。（その他） ・賃上げ・新拠点立ち上げによる減価償却費の増加、原材料・仕入価格の高騰による費用の増加。対して売上は前年に対して落ち込みが激しい。（自動車）
<p>サービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が少しずつ増加しており、ホテルの売上が増加。（理美容・クリーニング） ・コロナが5類に移行し、インバウンド需要によるリゾート開発が増加傾向にある。（その他） ・4年ぶりに忘新年会のお客様が来店される様になり売上の増加が続いているが、その分人手不足が大きな課題になってきている。（飲食） ・降雪期は増収が見込める期待が大きいですが、降雪にも限度があり道路走行が困難な状況は遅れが大きい。バス停の除雪も追いつかず雪山の中で乗降していただくことは心苦しい季節。収支は安定してきても人員問題と資金繰りの困難は継続中。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI10.4 ポイント悪化、採算 DI3.4 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI10.4 ポイント改善、資金 DI0.1 ポイント悪化、従業員 DI10.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.9 ポイント改善となった。業種別では、建築業 12 ポイント悪化、総合工事横ばい、設備・その他 26 ポイント改善となった。賃上げ・賞与は可能な限り up しようと思っている。経営者も従業員も手許にお金が少ないと発想が貧困になり会社の将来に大きく影響すると考えるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI16.7 ポイント悪化、採算 DI12.2 ポイント悪化、仕入単価 DI6.9 ポイント改善、販売単価 DI0.2 ポイント改善、資金 DI9.1 ポイント改善、従業員 DI7.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.2 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 10 ポイント、金属窯業他 13 ポイント改善、印刷・出版横ばい、家具・木材 33 ポイント悪化となった。コロナ前の業績にはほど遠い実績で推移している。まだまだ辛抱の経営が続くとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI13.1 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI1.5 ポイント悪化、販売単価 DI4.4 ポイント悪化、資金 DI3.8 ポイント改善、従業員 DI7.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.2 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材 13 ポイント改善、繊維・衣服等 33 ポイント、食料品 25 ポイント、その他 11 ポイント悪化となった。灯油の仕入値が小幅に上昇しているが、販売価格は据置。今後、仕入値が更に上昇した場合は価格転嫁が必要となるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI10.8 ポイント改善、採算 DI1.3 ポイント改善、仕入単価 DI16.9 ポイント悪化、販売単価 DI7.1 ポイント悪化、資金 DI5.0 ポイント悪化、従業員 DI8.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 9.2 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品横ばい、食料品 7 ポイント、その他 21 ポイント、自動車 10 ポイント悪化となった。仕入価格の上昇や玉不足により仕入が困難になっている状況との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI12.5 ポイント悪化、採算 DI27.7 ポイント悪化、仕入単価 DI14.4 ポイント改善、販売単価 DI6.2 ポイント悪化、資金 DI16.3 ポイント悪化、従業員 DI2.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、飲食 17 ポイント、整備業 50 ポイント悪化、ホテル・旅館横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、その他 8 ポイント、運送 67 ポイント改善となった。パート・社員の賃金の増加との声も寄せられている。</p>